



# あげしお

令和6年1月30日

鷹南学園

三鷹市立第五中学校

校長 鶴崎 靖二

◇学校教育目標◇

- ・進んで考える人
- ・情操豊かな人
- ・心身ともに健康な人

～「あげしお」物事の勢いが盛んになることを意味し、生徒が勢いよく活躍するという思いを込めて～

ホームページ <http://www.mitaka-schools.jp/gochu/jhs/>



学校IPリンク

## 「残心」

校長 鶴崎 靖二

日本の武道に「残心」(残身とも書く)という言葉があります。文字通り、技を發した後も心を残すという意味で、技を放つと同時に気を緩めたり、動作が終わってしまうのではなく、心身ともに余韻を残すといった日本の美学や禅との関連する概念からくるものとのことです。

私は昔、少したけ剣道をやっていましたが、剣道では技が決まっても、残心がないと判断されると、それが正確な打突であったとしても有効打突として認められません。場合によっては、「一本」を取り消されることもあります。

残心の在り方については、武道によっていろいろありますが、弓道では「矢を放った後もその姿勢を保ち、目は矢が当たった場所を見据えること」だそうです。空手や柔道では、「姿勢を維持し、反撃にも対応する心身の準備を保つ」ことのようにです。

武道に限らず、茶道にも「残心」という概念があるのだそうです。調べてみると、江戸末期の大老井伊直弼(いいなおすけ)は、「茶湯一会集」でこう書いていました。

「茶の席で、客が退席したとたんにバタバタと扉を閉めたり、後片付けを始めるのものではない。客が見えなくなるまで見送り、その後一人で茶室に戻って茶をたて、今日と同じ出合いは二度とない(一期一会)ことを噛みしめることが大切である」と。

武芸にしても、茶道にしても、事後にすぐに気を抜かず、余韻を保つということですね。

1月も終盤にさしかかると、受験で合格した生徒たちが、校長室を訪ねて、「おかげさまで合格しました！」とうれしい報告をしてくれます。本当におめでとうございます。報告に来る生徒たちに、私が必ず話すことがあります。それは、

「多くの友達がこれから受験の本番を迎える。最後の一人が進路を決めるまでは、どうか勉強に向かう教室の空気を大切に守ってほしい。それが試練に向かう友達への最大のエールでもある」と。切磋琢磨して共に汗をかき、泣き、笑い合った仲間の真剣勝負が、いよいよこれから本格化します。友達のためにも、ぜひ学校では、最後の一人が決まるまで、自分自身の取り組みの「残心」を残してほしいと願っています。そして、「残心」を残すということは、自身の次へのステップにもつながるものだと思います。

現時点で合格を決めて、報告に来たお子様の保護者の皆様にとって、お子様の合格は、きっと感慨ひとしおのことと存じます。心よりお祝い申し上げます。

## 射法八節

八七六五四三二一、  
残離会引打弓胴足  
心れ分起構造踏  
・残 けしえりみ  
身